

大津・西村さん(平野小5年) 全国水泳で2冠 「将来五輪でメダル取る」

3月に東京都で行われた「全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会」の10歳以下の部で、大津イトマンスポーツクラブの平野小5年西村音那選手(11)が女子50メートルバタフライと同背泳ぎの2種目で優勝した。同自由形でも2位となり、メダル3つの快挙を成し遂げた。「将来はオリンピックでメダルを取りたい」と練習に励んでいる。

50バタと背泳ぎ

「天性の感覚」武器に

大会では、初日の背泳ぎを自己ベスト更新で制し、波に乗った。自己新をたたき出して2冠を達成。自由形は予選6位だったが、泳いだ」と振り返る。



●練習に臨む西村さん。スイミングキャップをかぶると、表情が引き締まる(大津市打出浜・大津イトマンスポーツクラブ)●練習でバタフライをする西村さん

ロシア人の母と日本人の父の間に生まれ、生後7カ月から同クラブに通い、水に親しんだ。小学2年で選手クラスに入り、頭角を現した。18年の同大会には右手小指を骨折し、出場できなかったが、着実に力を付け、夏のジュニアオリンピックは50メートルバタフライで8位入賞した。

身長約147センチ。けて大きくはないが、がっしりした上半身から力強いストロークを繰り出す。「天性の水の感覚がある。体幹がしっかりし、水をこらえる技術が突出している」と指導に当たる吉田将寛コーチは評する。長年選手育成に携わる濱田和哉所長も「この年代では完成された泳ぎ。30年近く選手を見ていたが見たことがないレベル」と驚く。

次の舞台は11〜12歳の部。6年生や中学1年との争いとなり、再び挑戦者の立場だ。「勝敗よりもタイムが大事」と、さらなる高みに気を引き締める。「オリンピックでメダル」。思いを胸に、泳ぎに磨きを掛ける。(山本陽平)

